

## 令和元年度第1回柏市史編さん委員会会議録

### 1 開催日時

令和元年6月25日（火）午前10時～午前11時30分

### 2 開催場所

沼南庁舎5階大会議室

### 3 出席者

（委員）

中村勝委員長，川本勝彦副委員長，後藤敏委員，清藤一順委員，高林直樹委員，上山和雄委員，関恵子委員（7名）

（事務局）

小貫省三生涯学習部長，吉田敬文化課長，黒須雅子主幹，小河原博志副主幹，大野和宏副主幹，高野博夫主任（6名）

### 4 傍聴者

なし。

### 5 報告事項

平成30年度事業報告及び令和元年度事業計画について

事務局より資料に沿って，進捗報告及び今後の予定について説明を行い，質疑応答となった。

（中村委員長）最初に平成30年度事業報告について，質問がありましたら受け付けます。

（上山委員）好評という考古資料の販売状況について。

（事務局）今月1日より本格的な広報宣伝活動を行い，現時点で40冊販売。あまり多いイメージはないかもしれないが，一年で2～3冊という他の市史刊行物の販売状況と比べると，経験ないレベル。

（川本副委員長）素晴らしい内容と状況。一方，地元で浸透している地名と，本の表記地名に一部かい離も見られるようだ。間違いではないが，改訂の機会に確認してほしい。

（事務局）行政なので，資産管理上の台帳に登録されている地名表記に統一。もちろん地元で住民の方々が呼んでいる地名とかい離も

ある事は、現場作業を通じて把握しており、（よりよい方法も）考えていきたい。

（関委員）書棚に納める時、考古資料はサイズが図抜けて大きい。図版が多く丁寧なものであるが、大きさも感じたという感想。

（中村委員長）市史編さん事業が順調に行っているなど、安心してゐる。ごくろうさまでした。

（中村委員長）では、次の今年度事業について。

（上山委員）柏市史文化財保存活用地域計画策定の、今後の計画進行の詳細。

（事務局）今年度の文化財保護法改正を踏まえ、文化庁が新しく取り組む補助事業。これにいち早く柏市も手を挙げ、採択された。

補助を受けながら今後3か年で策定するが、各種文化財、例えば建造物や仏像・史跡・民俗芸能等を対象としているため、文化課では文化財担当が主として動くが、この文化財の一分野として古文書資料も含まれるため、その点から市史編さん担当も関わっていく。

当面1年目～2年目前半は、文化財資料の全体把握に努める調査業務に専念。最終的にどう保存・活用していくかの方針を、以降考えていく。

日本の従来文化財保護行政は、指定主義の下、指定したものについて、行政として税金をかけ、保護していくという発想のもの。今回の法改正は、未指定のものも広く保護対象に含めた、国にとって一大転換とみなしている。

そのような未指定のものを保存しながら、まちづくりにも活用していく。そのために全体を調べて地域の活性化のため、文化財や古文書資料をどう活用していくかの方針を定めていく。

無論、そうは言っても税金を無尽蔵にかけていくわけにはいかないので、優先順位的なものを決めていかざるを得ない。税金をかけて守るもの、地域で守っていてもらうべきもの、そのものは残せないが記録保存はしていくもの等のつらいすみ分けも、していかなければならない事になる。

いずれにしてもこれまで文化財を守っていく基本方針がなかったため、きちんとつくっていかうと、これを機に踏み切ったもの。

（上山委員）東葛近隣では、他にどんな市が取り組んでいるか。

(事務局) 今回の前段として歴史文化基本構想があり、銚子や富里等が策定していた。それを更に発展させたものとして進めているのは東葛では柏だけ。県内では4～5の自治体。この後、我孫子市等が手を挙げる意向のようだが、真っ先に東葛で手を挙げたのは柏。

(中村委員長) 関連するが、古文書の学芸員はどここの市でも育っていない。考古学・発掘分野は法的にも長く在任できるが、古文書はこれまで多く収集してきた。よって、これにできるだけ長く専門的に関われる学芸員配置も、事務局では考えて頂きたい。

(事務局) 文化課としても長年勤続した専門職員の後任者が欲しく、人事部門に配置要求を続けてきたし、今後も続けていく。

(後藤委員) 写真展について、もっと長い開催日数が欲しい。

(事務局) 利用が一単位4日であること、他市民団体の利用希望も殺到していることから、今回の日数枠となった。そこで出張写真展的な形で、沼南庁舎の市民交流サロン、図書館本館等で引き続き見て頂く機会を設けていく。

(中村委員長) 今回は道がテーマだが、具体的な内容は。

(事務局) 今回はいわゆる国道や県道等の幹線道路と、その周辺の街並み・生活情景を対象に、その変遷が見て取れるものを準備中。他にも柏の村絵図で水戸街道を紹介したい。

(関委員) 写真展の実働部隊として関わっているが、写真選定は終わり、キャプションを付ける段階。

また古文書活用ではその成果の一環として、地元市民が集まって研究し、高柳嶋村家文書をこの通りまとめた。(席上配布)

ただし、古文書講読会や写真整理ボランティア等の史料保存活用事業は、我々世代で固定化しているのが課題。若い世代の取り込み・育成のため、足を運びやすい日程や曜日設定を希望。

(事務局) 本課業務の特性上、現状でも土日開催イベントや会議等で職員が休日出勤。今回のご意見を承りつつ、職員の負担軽減にもご理解とご協力をいただきたい。

(中村委員長) 弁栄上人の顕彰事業の具体的な内容は。

(事務局) 何を具体的に打ち出していくか情報収集・検討中だが、基本的なコンセプトもとらえ始めている。

没後百年という事で既に全国で、様々な顕彰事業・展示展が開催。この中に埋没しないよう、生誕の地らしく、どのようにして偉人が

この柏・鷺野谷という環境で生まれ，才能が形成されてきたかという，地域密着感を前に打ち出した事業化を模索中。

上人の全国的活動拠点の一つでも調査をしたが，書籍には表れない，現場に入ったからこそそのエピソードも聞いた。こうした地元柏の偉人の，人となりに触れるリアルな情報を，いかに市民の皆さんに提供していくか，引き続き検討していく。

## 7 その他

当月末をもって任期満了・退任する川本副委員長・後藤委員より，最後の挨拶と今後の柏市史編さんに対する期待等についてそれぞれ言葉を頂き，閉会した。

以上